



桜川市初優勝 消防ポンプ操法競技大会 県西地区大会

10月18日、筑西市の下館運動公園で「第66回茨城県消防ポンプ操法競技大会県西地区大会」が開催され、桜川市消防団が初優勝を果たしました。

この大会は、消防団員の消防技術の向上と土気の高揚を目的に、全国各地で開催されているもので、本大会には県西地区8市町が参加。6人1組で60秒先の的に向かってポンプ車からホースを延ばして放水し、的を倒すまでの時間や正確性を競いました。

桜川市では、消防団全36分団からローテーションで選手を選抜して、今回は、真壁地区の第25・26・27分団から6人の選手を選抜。6月下旬から約4か月の間、真壁支部区長会を中心に市民の皆様のご支援と桜川消防署真壁分署の署員から熱心な指導を受け、早朝や夜に、厳しい訓練を重ねてきました。

競技は、土気、規律、迅速な行動、動作、チームワーク、確実な操作、隊員の安全などの項目を減点方式で審査。選手の主な役割は、指揮者が号令を出し、1番員と2番員がそれぞれホース伸長と放水、3番員がホース伸長とび口の搬送、4番員が消防ポンプ自動車の操作をし、補助員が4番員の補助を行います。

晴天に恵まれた当日、選手の方々は、その鍛えあげられた一連の規律動作や操作技能を存分に発揮しました。

- 出場選手 (敬称略)
- ・ 指揮者 / 佐藤大介 (第25分団)
- ・ 1番員 / 稲見勇一 (第25分団)
- ・ 2番員 / 猪野学 (第25分団)
- ・ 3番員 / 小川雄 (第26分団)
- ・ 4番員 / 高橋良之 (第27分団)
- ・ 補助員 / 潮田真也 (第26分団)



常陽銀行から、桜川市市制施行10周年を祝って、市のPRに活用できる「コマースャルボード」(左写真の背景)の寄贈がありました。



(写真右2番目から)
常陽銀行の園部浩重常務取締役、大門卓行真壁支店長、塩谷和宏岩瀬支店長

筑波銀行から、桜川市市制施行10周年を祝って、国内第2位の湖沼面積を誇る霞ヶ浦の「帆引き船の置物」の寄贈がありました。



霞ヶ浦帆引き船の置物を寄贈した、筑波銀行の植木誠副頭取(写真右)